

2008年（第3回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

平成20年7月21日（月）～8月4日（月）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ連邦共和国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

目 次

鳥栖・ツァイツ子ども交流事業参加者名簿	1
事前研修	2
訪問日程表	3～4
ツァイツ市概要及びツァイツとの交流のあゆみ	5～6
引率者の感想	7～8
参加者の感想	9～17
日 記	18～31
事後研修	32～33

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿

引率

鳥栖市市民協働推進課 女性政策国際交流係 長 野 稚 佐
 鳥栖市市民協働推進課 国際交流員 アリダ・シュペラー

団 員		在籍学校名
Miyachi Haruka 宮 地 遥	女	田代中学校 2年
Nogami Tsubasa 野 上 翼	男	鳥栖高等学校 1年
Takeuchi Ryo 竹 内 涼	男	東明館高等学校 1年
Monji Kikuko 門 司 喜久子	女	鳥栖商業高等学校 2年
Saitou Hisamitsu 齊 藤 寿光	男	神埼清明高等学校 3年
Noguchi Yuki 野 口 優紀	女	神埼清明高等学校 3年
Noda Saki 野 田 沙希	女	鳥栖高等学校 3年

事前研修

- 5月25日(日) オリエンテーション
スケジュールについて
団員自己紹介
旅行手続説明
ドイツ滞在中の注意事項
- 6月8日(日) 第1回事前研修
鳥栖市について
ドイツ・ツァイツ市について
英会話・ドイツ語会話
- 6月15日(日) 第2回事前研修
ホームステイの過ごし方・マナー
英会話・ドイツ語会話
送別会の出し物検討
- 6月21日(土) 第3回事前研修
英会話・ドイツ語会話
送別会の出し物の練習
- 6月29日(日) 第4回事前研修
英会話・ドイツ語会話研修 ～自己紹介～
ホストファミリーについて ～手紙の書き方～
ドイツの学校制度について
持っていくものについて
送別会の出し物の練習
- 7月5日(土) 第5回事前研修
ドイツ語会話 ～復習・自己紹介の練習～
英会話
ドイツについての○×クイズ
日記・報告書等について
送別会の出し物の練習



結団式 7月18日(金)

本研修 7月21日(月)～8月4日(月)

事後研修 8月24日(日)
報告書作り



訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月21日 (月) 祝日	6:20	福岡空港国内線集合	各自	
	7:50	福岡空港出発(NH212便) / ~9:05 中部国際空港到着	飛行機	
	10:30	中部国際空港出発(LH737便)	飛行機	
	}	(△7時間の時差)		
	15:40	フランクフルト空港到着/~17:15 入国手続		
	17:15	フランクフルト空港乗継/出発(LH1108便)	飛行機	
	18:10	ライプツヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
7月22日 (火)	11:00	ツァイツ市役所 市長表敬訪問		
		ツァイツ市役所見学(市役所の塔登り)		
	12:30	(昼食)		
	13:30	ツァイツ市内の案内	徒歩	
	15:00	ボウリング		ホストファミリーと一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅		
7月23日 (水)	10:00	大聖堂とモーリッツブルグ城の見学		終日 ツァイツ市の子どもと一緒に
	12:00	(昼食)「騎士の食事」~中世のドイツの食事~		
	13:30	木版教室(レーバックセンター)		
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅		
7月24日 (木)	8:00	木版教室(レーバックセンター)		終日 ツァイツ市の子どもと一緒に
	11:00	お城の庭園/日本の庭園の見学	徒歩	
	12:30	(昼食)		
	14:00	文化センターの見学/ダンス練習の参加	徒歩	
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅		
7月25日 (金)	8:30	木版教室(レーバックセンター)		終日 ツァイツ市の子どもと一緒に
	11:00	乗馬協会の見学	徒歩	
	12:30	(昼食)		
	13:30	クレムザー(箱型馬車での旅)	クレムザー	
	15:30	解散・受入家庭へ帰宅		
	19:30	ミヒャエリス教会でのコンサート		
7月26・27 (土・日)		ホストファミリーと自由行動		
7月28日 (月)	10:00	リサイクル工場見学	大型自動車	ツァイツ市の子どもと一緒に
	11:00	ミヒャエリス教会の見学	大型自動車	
	12:00	昼食		
	13:00	風車の見学/村の案内/村の展示/チーズの展示	大型自動車	
	15:30	カヌー団体の見学	大型自動車	
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅		

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月29日 (火)	8:07	ツァイツ駅出発⇒ハレ市へ	電車	終日 ツァイツ市の子どもと一緒に
		先史時代の博物館の見学／動物園／ショッピング		
	17:22	ハレ駅出発⇒ツァイツ市へ	電車	
	18:46	ツァイツ駅到着・解散・受入家庭へ帰宅		
7月30日 (水)	10:00	ツァイツ市図書館の見学		終日 ツァイツ市の子どもと一緒に
	11:00	鳥栖市長と一緒にツァイツ市長表敬訪問	徒歩	
	12:00	昼食		
	13:00	地下ツァイツの見学	徒歩	
	14:00	格技センターの見学	徒歩	
	15:30	解散・受入家庭へ帰宅		
7月31日 (木)	8:00	ワイマール市へ出発	専用バス	終日 ツァイツ市・鳥栖市の両市長 ツァイツ市の子ども達と一緒に
	10:00	強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館の見学		
	13:00	昼食		
	14:00	ワイマール市内の見学	徒歩	
	17:00	ワイマール市出発	専用バス	
	18:30	ツァイツ市到着・解散・受入家庭へ帰宅		
8月1日 (金)	9:00	学校案内／研修／食事を作る		終日 ツァイツ市の子どもと一緒に 両市長・ホストファミリーと一緒に
	12:00	昼食 ※作った昼食を両市長等と一緒に食べる		
	13:00	送別会出し物の練習		
	14:30	解散・受入家庭へ帰宅・滞在		
	17:00	大聖堂でのパイプオルガンの演奏		
	18:00	両市長及び受入家族等全員で送別会		
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅		
8月2日 (土)		ホストファミリーと自由行動		
8月3日 (日)	9:40	ライプツ化空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	飛行機
	11:40	ライプツ化空港出発(LH1105 便) /~12:35 フランクフルト空港到着		
	14:20	フランクフルト空港乗継/出発(LH740 便)		
8月4日 (月)	∫	(時差 +7時間)		飛行機 貸切バス
	8:35	関西国際空港到着/入国手続		
	12:30	関西国際空港乗継/出発(NH1643 便)		
	13:50	福岡空港到着/手荷物受取		
	14:15	福岡空港出発		
	15:30	鳥栖市役所到着/解団式		



ツァイツ市概要

位置

ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。
ツァイツ市はライプチヒの南西 42 km に位置し、ライプチヒ空港まで車で約 1 時間ほどです。

人口 約 32,000 人

面積 約 25 km²

特徴

● 交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路 A9、A4 が近くを走り、市内で B2、B91、B180 の 3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプチヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

● 主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴史

967 年、ツァイツが Cici の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。

19 世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900 年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。

1936 年フッペルのピアノ製造工場がピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。

1949～1990 年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

1990 年東西ドイツ統一。

ツァイツとの交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒 2 名とツァイツ市職員を招待。

年	月	主な内容
2001	4 ～ 5	「鳥栖子どもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3 ～ 4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協力会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5 ～ 6	鳥栖市緑化協力会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長とする総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10 ～ 11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協力会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見交換を行った。
2007	5 ～ 6	ザクセン＝ツァイツ公国350年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加。また、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏をした。
2007	7 ～ 8	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。

ツァイツ市を訪問して



鳥栖市市民協働推進課
女性政策国際交流係
主事 長野 稚 佐

この子ども交流事業をはじめから5年、今回は3回目のツァイツ市訪問であった。

季節は夏、しかし最初の1週間はとても寒く、子ども達の体調が気になって仕方がなかったが、私の心配とはうらはらに子どもたちは毎日のホストファミリーとの出来事を私に楽しそうに話してくれた。ツァイツ市ではさまざまなプログラムが準備され毎日が充実していた。ツァイツ市の子ども達も夏休みだったため、昼間のプログラムを一緒に過ごすことが多く、たくさんコミュニケーションの時間がとれたと思う。それぞれのプランについては私も勉強することが多く、例えば最初のボーリングではゲームをすることでホストファミリーと早く打ち解けることができたし、学校でのジャガイモスープ作りではあえて通訳を介さずに子ども達同士で作業をさせたり、伝統的なダンスの練習では送別会の際にホストファミリーにそのダンスを披露するなど創意工夫されていた。でも、これはこれまでの5年間相互に行ってきた交流で積み上げられた実績であった。両市のプランの良いところを参考にし、今回のような素晴らしいプランに作り上げられてきたものであった。

また、今回はワイマール市のブーヘンヴァルト記念館の見学が追加されていた。これは、本来ツァイツ市とは「平和」をきっかけに交流がはじまったことから、平和学習の一環として組み入れてもらったものである。ドイツの辛い過去を知り、私たちがこれまで知ることができなかったような歴史を目の当たりにし、子ども達も今あたりまえのようにある幸せを何か考える機会になったことだろうと思う。

また、ホストファミリーは鳥栖の子どもたちを温かく迎えてくれた。平日の夕方や休日のプランはホストファミリーに任せてあるが、できるだけ楽しんでもらいたいと要望を聞き入れてくれていた。そして、子どもたちも自分だけのホストシスターだけではなく、ツァイツ市の子ども達全員と仲良くなり、みんなで楽しんでいたことだった。これは、ツァイツ市の職員の方が考えてくれたプランの構成がこのようすばらしい結果にしてくれたと思う。

子どもたちは当初ドイツ語がまったく話せなかったが、事前研修でドイツ語を勉強し、自己紹介ができるようになった。ドイツ語での自己紹介はツァイツ市長からも大変喜ばれ感激された。言語や文化の違いがあるにしても、お互いを理解しようとしそれを受け入れ体験できたことで、2週間という短い期間であったが、この交流事業で人の温かさや感謝の心を養うことができたと思う。

私も、引率としてこの事業に参加し貴重な経験をさせていただいた。この事業にご協力いただいたツァイツ市の方々に感謝したい。また、ツァイツ市との交流を語る上で重要な「平和」というテーマについて改めて考えるとともに、この小さな交流が世界平和へとつながっていく事を願う。

2008年の鳥栖・ツァイツ子ども交流事業について



鳥栖市市民協働推進課
女性政策国際交流係
国際交流員 アリダ・シュペラー

2008年7月21日から8月3日まで引率として子ども達7人と共に鳥栖市の友好関係があるツァイツ市に行った。

鳥栖市の中学生1人と高校生6人、市民協働推進課の担当者と私は、ライプツッヒ空港でツァイツ市役所の職員と受け入れ家族から暖かく迎えられた。子供交流事業の担当者であるツァイツ市学校管理・文化局の職員は、素晴らしくて多彩なプログラムを企画し準備してくれていた。たとえば、モリツブルク城の建物群にあるアート・文化センターの木版教室では、お城と大庭園を見学した後、モチーフを選んで、木版を製作した。また、創作的な活動だけではなく、スポーツもした！ツァイツ市の格技センターでは、ドイツのクラブメンバーと一緒に柔術に挑戦した。乗馬クラブの見学や馬車に揺られてツァイツ市の郊外にあるお城まで旅をしたことなどとても楽しい体験だったと思う。馬車に乗って、行って、見学してきた。地域の名物として有名なダニチーズを食べてみるチャンスがあったが、口の中に沢山生きているダニ?!というイメージがちょっと怖かったけど、一所懸命頑張って食べてみて、意外にとっても美味しかった。もしかして、今回の一番面白い体験はこのダニチーズ博物館の見学だったかもしれない。

二週目は、鳥栖市の市長と市民協働推進課の課長もツァイツ市に到着した。この公式な訪問団は私たちとの学生交流事業の一部に参加した。例えば、ワイマール市と強制収容所跡のブーヘンワルト記念館の見学。私の意見では学生たちにとってブーヘンワルト記念館の見学はとても大事な経験だと思う。教科書でしか知らない暗く悲しい歴史について、本物の場所と施設を見ることで、平和の尊さを強く認識するに間違えない。

学生交流事業のクライマックスはモリツブルク城での送別会だったと思う。滞在中に一緒に練習した伝統的なダンスをバロック時代の服装を着て踊った。2週間の間に両市の子供たちはすごく仲よくなり、とても楽しい時間を過ごした。初めの恥ずかしさはまったくなく、日本の子供たちは受け入れ家族の一員になったと思う。

空港での別れは沢山の涙が流されることになった。来年また会えるという思いは唯一の慰めだった。そのときまでメールや手紙を書いたり、電話をしたりしようと約束していたようだ。

2008年の学生交流事業は、私の鳥栖市役所でのドイツの国際交流員として最後の事業だった。両市の友好関係事業に携わった3年間は、有意義で、素晴らしいものだったと思う。来年の学生交流、将来の学生交流事業の成功を期待している。そして、ツァイツ市と鳥栖市の友好関係がさらに深まることを願っている。

ドイツ・ツァイツ市に行って

田代中学校 2年 宮地 遥

私は、鳥栖市の国際交流事業で、ドイツのツァイツ市にホームステイに行きました。まさか中学2年で行けるとは思ってなかったので、とてもビックリしました。でも嬉しかったです。

行く前の事前研修では、ドイツ語の勉強・ホームステイ先での過ごし方などたくさん習いました。ドイツ語は、英語とはちょっと違うので難しかったです。過ごし方のことでビックリしたことが、鼻をすすってはいけないってことです。

私はいくつかのことを習ってきました。

1つ目は、環境の事です。家の外にはリサイクルボックスがありました。日本では袋でゴミを出しているけれど、ドイツでは違いました。ゴミ収集車が月1回か週1回で分別されたボックスの中身を集めにきます。他には、スーパーなど店の袋が有料になっている所が多かったのでビックリしました。

2つ目は、ワイマール市の強制収容所です。そこには死体の積み上げられた写真などそのころの時代に何があったのか見ただけで分かりました。すごく悲しい気持ちになりました。人間が焼かれた焼却炉にも行きました。1つの焼却炉で3人を焼いていたそうです。焼却炉の周りにはたくさんの折り鶴や花などたくさん置いてありした。私たちも折り鶴を置きました。他にも、いれずみをしているユダヤ人が亡くなったら、その人のいれずみをしているところの皮膚をはがしてランプに付けていたそうです。私はそれを聞くと、ビックリすると同時にゾッとしました。私にはそんなこと出来ません。



3つ目は、ドイツの街並みです。ツァイツ市には、古い建物やお城がたくさんありました。お城はとて大きくキレイでした。学校や街などの壁に、落書きがあったので不思議に思っていたら「これは落書きではなくお絵かき」と言われてビックリしました。

私は中学生でこういう体験が出来るとてもよかったですと思います。ホームステイ先の人やいろんな人と仲良く出来たので良かったです。ホームステイ先のサラとは、これからも連絡を取り続けようと思います。来年またサラたちと会えるのが楽しみです。今回行けなかったところは、次回行く機会があればそのときに行こうと思います。



今回のドイツ交流事業に参加した人の中では、私の家だけが前の年にドイツからのお客様の受け入れをしていました。実は、第1回の交流事業に姉が参加しており、4年前にもドイツからのお客様を受け入れていました。そのため、少なくとも他の参加者よりはドイツの人との会話する場数を踏んでいると勝手に思っていました。

しかし、その時は姉を頼りながらの英会話だったので「日本語をまったく使えない状況で英語を話す」ということの難しさを知りませんでした。電子辞書さえあれば何とかかなると思っている人も多いかもしれません。しかし、せっせと電子辞書で調べながら質問に答える際、こちらが少し手間取っていても相手は待ってくれず、間髪いれずに次の質問がやってきます。外国の人とのコミュニケーションや英会話の難しさを痛感しました。

だからといってドイツでは、苦労ばかりしたわけではありません。いろんな感動を得ることができました。ただ街を歩いているだけで、そこには日本とまったく違う景色が広がっています。歩いて集合場所に行くとき、ホストファミリーとスーパーマーケットに行くとき、車に乗って遠くに行くとき、電車に乗ってさらに遠くに行くとき、日本とは全く違う風景が目に入ります。食事にも国の違いを感じました。朝からお肉を食べたり、涼しいからなのか牛乳やジュースを冷蔵庫に入れず、ぬるいまま飲んでいたり。食文化の違いがわかると同時に、日本の食事はおいしいと改めて思いました。今となってはドイツでの食事も懐かしく感じます。この2週間でドイツ文化の一部、世界の広さを肌で感じることができました。

このドイツ交流事業で学んだことは、豊かな自然と環境に対する思いやり、例え文化が違い、言葉が通じなくとも、とても楽しく生活できるということです。ドイツと一緒に来てくださった市の職員さんたち、この事業を計画してくださった人に感謝しています。

非常に素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



〔写真：ツァイツ市ホームページより〕

国際交流について

東明館高等学校高校 1年 竹内 涼

僕は、初めて日本列島そして日本海を越えユーラシア大陸に上陸しました。今まで、日本国外に行ったことが無かったから、フランクフルト空港に着陸した時は、本当に日本の裏側のドイツにいるということに不信を感じていました。実際、ドイツへ入国してみると、日本の面影が無く、逆に金髪や茶髪、黒人や白人が、大量にいるということを目の当たりにしたことがなかったので、ここは日本じゃないんだということに自覚しました。

そしてフランクフルトからライプツィヒへ向かい、まだ写真でしか見ていない家族の元へと行きました。家族と逢う前は、相当緊張しました。僕の受入れ先の家族は13歳の女の子と6歳の男の子でした。もちろん高校生の僕としては、自分が一番背が高いのだと思い込んでいましたが、逢ってみると、13歳の女の子ベッキーは、僕より遥か5cmくらい高かったです。日本と欧州の差というのがわかりました。



僕は、地理学が好きだから日本とドイツの文化の相違点と同類点を探していました。すると、相違点として見つけたものはトイレでした。男子トイレなんですが、立小便トイレの横に仕切りがなく、さらに様式トイレでも、ドアの下の3分の1が開いていて、外から見えたりと、多分日本は、気持ちの良いトイレはすませられないだろうと思いました。逆に同類点は、マナーにありました。当たり前のことは、万国共通ということが分かりました。

ドイツに行き、日本へ帰り、何が一番印象に残っていたものは？と聞かれたら、すぐに出ることは、文化の違いだと思います。街並みは完全にドイツの方が綺麗、しかし、日本も見直さなければならぬことが、見えました。例えば、町の開発などで、文化を壊して新型のビルをたくさん建てているところです。ドイツでは、新型ビルが非常に少なく、ドイツ、中世ヨーロッパの文化が、いまだに残っていて感銘を受けました。日本でそのような都市は、京都、奈良くらいだからそういう日本独自の文化を日本の町に戻すべきだと考えました。

ライプツィヒ空港から日本へ旅立つ際、15日間がもの凄く早く感じました。日本にいたことが有り得なくなりました。ドイツでは、ホストファミリーから大変温かくしてもらって、まるで家族の一員のように、ドイツが母国ではないかと感じました。日本へ帰る際、本当の家族と別れるみたいになり、泣いていました。僕としては、第2の故郷はドイツのツァイツ市となり、近いうちに里帰りしたいなど今でも思っています。いつかまた会えるだろうと毎回ドイツの家族のことを考えています。本当にドイツに行ってもよかったと感じました。連れて行ってくださった鳥栖市の方々に感謝します。



2週間のホームステイを通して

鳥栖商業高等学校 2年 門司 喜久子



ドイツ、ツァイツ市でのホームステイは私にとって学ぶことが多かった2週間の良い経験となりました。行くまでは、やはり期待より不安が大きく、5回の事前研修で学んだことが活かせるのか心配でした。しかし空港での出迎えでホストファミリーの温かさと優しさで不安はきえました。最初の市長表敬訪問では日本で練習して来たドイツ語自己紹介が、緊張したけれど上手く出来て良かったです。

月曜から金曜までの研修では、ドイツの歴史や文化をたくさん体験することができました。特に印象に残っているのは、ダニチーズを食べたことです。世界で一番高いチーズとの説明がありましたが、実際にダニを見たあとに食べるのは相当な勇気が要りました。私はこのチーズを食べたことで長生きできる気がしてきました。他にもハレ市1日視察やドイツ史に欠けてはならないワイマール市視察研修もありました。強制収容所を実際に見て、



悲しく辛い過去を聞いて、忘れてはならない事実だと改めて感じました。そして研修最終日は夕方から送別会でした。事前研修のときに一生懸命練習したソーラン節を皆の前で披露しました。「とても良かった」との言葉やたくさんの拍手が貰えてすごく嬉しかったです。その後にはいろんな方からのプレゼントを頂きました。その日はBBQで話をしたり写真を撮ったり食べたりでとても貴重な時間になりました。貰ったTシャツには寄せ書きをしてもらい思い出が増えました。寄せ書きを書いたり書いてもらったりしながら、もう日本に帰るんだと実感し本当の最終日、空港でホストファミリーとお別れするのもとても寂しかったです。



思えばたった2週間ではあるけれどたくさんの思い出やドイツの友達もでき、人との出会いがたくさんあった充実した毎日でした。コミュニケーションをとることの難しさも、上手く意思が伝わったときの喜びも多く感じる事が出来ました。私はこの交流事業があると知り勇気をだして応募してみて本当によかったと思っています。鳥栖市の代表として7人のメンバーに入れてもらいドイツに行けたことも私の大きな自信に繋がりました。そして2週間無事にホームステイできたのは、

ステイ先の家族や私の家族、市役所の方々、長野さん、アリダをはじめ、支えてくれた仲間がいてくれたからだだと改めて思います。ありがとうございました。

交流事業の感想

神埼清明高等学校3年 齊藤 寿光

私は、鳥栖市民になって半年も経っていないのに、交流事業に応募して選ばれた。この時は、神奈川から鳥栖に来る際、様々な出来事があったため、かなり投げやりな気分だったので選ばれた時は事の重大さをようやく理解した。

事前研修を何度か重ねていくうちに期待も大きくなり、不安も大きくなった。だが、みんなと話している時は、これを忘れていられたと思う。

当日になって、ますます期待と不安が大きくなり、実際にホストファミリーと会ったら何を話せば良いのかと考えていた。そして、ライブツィヒ空港でヨハネスの家族に会った時は、思考が止まったんじゃないかと思う。出発前に叔父から『やばい状況になったら、イッヒ ヤバイデン！とか言っとけ！』と助言らしいものをもらっていたが、変な意味だとますますヤバイので、言えなかった。私あまり喋らないこともあったので、ヨハネス一家には色々迷惑をかけてしまいましたが、それでもヨハネス一家と2週間を過ごせたことがドイツ滞在を有意義なものにしてくれました。



滞在中は他のメンバーとツァイツ市内等を回り、それが終わったあとは、ヨハネス一家は様々な場所に連れていってくれました。例えば、ゲラという町ですが、そこには大きなショッピングセンターや一輪者の男性(?)等、色々な発見がありました。また、ヨハネスの親戚にも多く会う機会がありました。両方の祖母、祖父に会った時は非常に驚きました。とても元気で、かつおもしろくて、優しかったです。また、お父さん、お母さんの兄弟、ヨハネスのいとこ、

同じ村の友人等、非常に多く会う機会がありました。皆は、個性豊かな人たちで、話している言葉はわからなくても、身振り手振りや表情でなんとなく意味は伝わりました。異国人である私にも、色々話しかけてきたり、世話をしてくれたり、何よりお小遣いをもらったりした時は、予想外でどうしたらよいかわからなくなったほどです。そして、ヨハネスの存在が一番大きかったです。彼も私も英語が不慣れでしたが、コミュニケーションを取ったり、一緒に村を歩き回り、テレビゲームをやったりしました。彼はとても優しく、私だけではなく、他のメンバーにも優しく接していましたし、かつユニークな人物でした。また、帰る当日?がヨハネスの両親の銀婚式だったらしく、何日か前から彼は両親のために準備をしていたりと、とても真似できるだろうと思うくらい、親切で素晴らしい男性でした。今回このような機会を与えてくださった皆さんには非常に感謝しています。そして、他のメンバーにも感謝して

います。皆がいなければ、これほど充実した日々を過ごせなかったと思います。そして、この交流事業が後の世代に引き継がれていき、私たち以上に素晴らしい体験を得て、社会に良い影響が与えられていけば良いなと思います。



Herzlichen Dank!

「子ども交流事業」を通して

神埼清明高等学校3年 野口 優紀

私は、ドイツでの2週間という短い中で多くのことについて学ぶことができました。



ドイツに着いて1番に訪れたツァイツ市の市役所では、建物の造りから違って、ドイツとあって洋風の雰囲気が出ていました。そこでは、たくさんの方からの歓迎もあり、嬉しい反面少し不安な気持ちでした。しかし、その不安な気持ちはすぐに無くなりました。全ては、本当の家族のように接してくれたホストファミリーのおかげです。空港での出迎えの際も、緊張した私にお父さん、お母さんは慣れない日本語で話をしてくれました。ミッシェルは、私と同じように緊張した様子で戸惑っているみたいでした。けれど、家に向かう車の中では周りの建物を説明してくれたり、家族のことについて話をしてくれたので少しずつ距離を縮めることができました。



家に着き、その晩は日本からのお土産を渡すととても喜んでくれました。それから、長時間の飛行機で疲れが溜っていたので明日に備えて早めに寝ました。

次の日からは、盛り沢山のスケジュールで1日1日ドイツのことを知り、充実した毎日を送ることができました。その中でも、特に印象に残っているのはワイマール強制収容所の見学でした。緑豊かな場所にあり、この場所でのどのようなことがあったのか興味深々でした。しかし、担当の人から詳しい話を聞くうちに、心が締めつけられるような感じでした。普通の旅行でドイツに来て、このような場所には来ないけれど、この事業で来てみてドイツの酷い過去を学ぶことができ、本当に良かったです。この他にも木版教室やハレ市見学、高級なダニチーズを食べたりして、とても貴重な体験をすることができました。

この事業で学んだことをこれからの人生に活かしていけるように日々励んでいきたいです。また、来年のためにもドイツ語を勉強して、たくさん話せるようになるよう頑張ります。今回、私達のために長い間計画してくださった皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。



ツアイツであった あんなことこんなこと (いつになっても忘れない！)

書いた人：鳥栖高校3年 野田沙希

さてさて、真面目な文章よりこっちが本分だぜ！ ということで私はツアイツであった出来事を面白おかしく（見えるように）報告しようと思います（真面目なのは他の子が書いてくれるって信じてるよ！）

1.おじさん、おしゃれに目覚めるの巻

ダニ・チーズの生産地を見学した時のことです。ひととおりダニ・チーズについて学び（もとい、気味悪がり）運命の試食も済ませて、さあそれじゃあお外でもうちょっと話をしようかと庭先のテーブルにみんなで座っていました。

そこにあったのはたくさんの美味しそうなアメリカンチェリー。テーブルにごろごろ転がっているそれは大変おいしく、みんなの手もよく伸びます。

さて、巷でもよく見かける二股のさくらんぼ。もちろんこのテーブルにもたくさん転がってありました。ぷらぷらと揺れる真っ赤な実。それを見て何を思ったのか、イヤリングのように耳にひっかけた人がいたのです。

それは……この人だ！（ベトハウス風に）1・2・3！



どーです！ どーです！ この可愛らしさ！
いい年したおっさんにさくらんぼのイヤリング
というギャップがなかなかキュートですね★
ちなみにこのさくらんぼがどうなったか、実は
よく覚えていないんですが、多分食べたんじゃない
んでしょうかね。

まとめ：食べ物で遊んではいけません。

2.日本人、馬上ではっちゃけるの巻

馬と触れ合った時のことです。（施設名忘れた！）ひととおり馬を構い倒したあと、それじゃあ今度は実際に馬に乗らないかい？ というわけで、みんなで馬に乗れる場所に移動した時のひとコマです。

ダイジェストでお送りいたしましょう。

最初は緊張していた皆さんも



慣れてくるとこの通り！



なかなかテンションの高い乗馬体験でした★

3.野田、オルガニストにきゅんきゅんするの巻

送別会のことです。この日は大聖堂でオルガンの演奏があるとのことで期待半分、不安半分（ミヒャエリス教会でのトラウマ）で行ったんですが。もう、すさまじかったです。何がって、オルガニストのおじさんの演奏が！



かつこいいいいい！

オルガンを弾いているおじさんはものすごく楽しそうで、軽やかに、鮮やかに、格好よく、いくつもの曲を演奏していきましました。

なんでもこのオルガンは16世紀の音を再現したものの、とのことで、今聞いている音色が16世紀にも流れていたんだなあとおもうと感動もひとしおでした。

そうして演奏し終えたおじさんはひとこと。

「さあ、じゃあ誰か弾いてみるかい？」

はい！弾かせていただきます！



ピアノが弾けてよかったー！ と心からおもった瞬間でした。ちなみにこのときは「主よ 人ののぞみの 喜びよ」を弾かせてもらったんですが、やっぱりパイプオルガンだと違いますねー！ 音が心臓に直接響く感じ！今でもこのときのことを思うと興奮がよみがえってきます。

4. コスプレではっちゃけるの巻

送別会では中世のコスプレをしてダンスをするという演目があったんですが、その控室での様子です。



(左から) グレイのものまねをする竹内くん、マッサージしてもらおう長野さん、ひとりルネッサンスな野田。

最後ということもあってとても和気藹々とした楽しい時間でした。



総括：とてもいい経験をさせていただきました！

参加するチャンスを与えてくださった皆様、本当にありがとうございました！

日時：2008年 7月21日（月曜日） 天気 曇り



今日の日程

移動

感想 日記の書き出しはわからないのですが、とにかく書き始めようと思います。

「初日」なわけですが、皆さんはとても家族との別れを惜しんでいました。

私は、あっという間の二週間だろうと思いつつ福岡空港を出発しました。

福岡から名古屋まで思った以上に時間がかからなかったので、

フランクフルトもそこまできつくはないだろうと、思っていましたけど・・・。

そのころは皆さんは、テンション高くて、最初は「ついていけねーよ」と思いつつ、

口には出さず、とうとう日本国外、未知の世界に旅立ったわけです。

機内でのことはあまり印象に残っていません。寝ていましたから・・・

一言でいえば「長かった・・・。」僕のとなりにならっていたT君(たけ〇ち)

は、携帯使って客室乗務員の方に注意されていました。「それは、いけないでしょう」

とうとうフランクフルトに着きました

なぜかわからないが達成感のようなものがありました。

そして、なぜか日本語を探したくなります。当然ありません。

なんやかんやでライブチヒへ到着。

空港に着くと、多くの方から出迎えられ、皆さん緊張していた様子でありました。

一通り挨拶があった後、皆さんはそれぞれの受け入れ先へ。

ここからとても長い二週間が始まろうとしていました・・・。

PS 私は、お土産がとても好評でした。みなさんはどうでしたか？帰りの移動も書かなければいけないのでひとまず終わりです。

担当： 野上 翼

日時：2008年7月23日（水曜日） 天気 ☀

今日の日程



9:50 モーリツブルグ城 集合
10:00 モーリツブルグ城と大聖堂の見学
12:00 昼食（騎士の食事、～中世ドイツの食事）
13:30 木版教室（レバックセター）
16:30 解散

感想

ドイツに来て3日目。

モーリツブルグ城と大聖堂の中には、たくさんの展示物や部屋があった。大聖堂のパイプオルガンはとても大きくきれいだった。大聖堂の中にあるお墓は、寒くてちょっと暗くて怖かった。

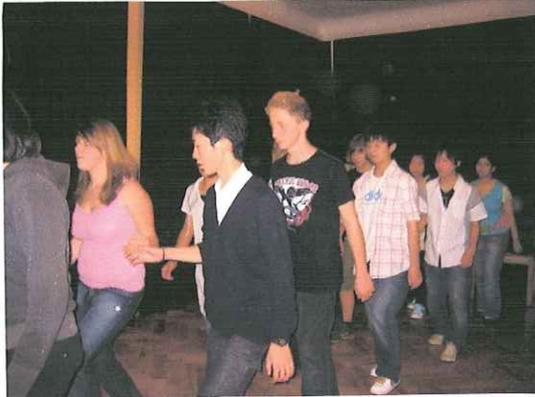
昼食は、的あてゲームみたいなものをして結果がいい人から王様・女王様となって衣しょうを着て中世ドイツの食事を食べた。食事はナイフとフォークではなく手で食べた。食べ終わった後は、音楽にあわせてダンスをした。

木版教室は、版画をつくるためにスケッチをした。スケッチの絵はモーリツブルグ城を書いた。できあがるのが楽しい。

担当：宮地 遥

日時：2008年 7月24日（木曜日） 天気 晴

今日の日程



- 木版教室
- ダンス
- 日本庭園
- 中華料理
- バーQ

感想 今日、は木版教室、ダンス 日本庭園見学で、とても

充実した日でした。特にダンスでは、とても楽しかったです。ここには、
初めて、ダンスの楽しさを知ることが出来た。自分では初めての欧州のダンスを踊ったので、
斬新な感じのダンスで、楽しかったです。

日本庭園では、日本人の日本に戻った気分になったので、母国には帰って来
たいという気持ちが、高まりました。なぜかというには、その街並みや文化が、気に入
り、日本に対する愛国心が、低くはなりました。あと、日本には、独自の文化が、
あつた。それらと、かわして、近隣の建物ばかりに、なっている。で、
日本での嫌いに、なっていました。

今日、家に帰り、BBQをしました。アリスさんと長野さんと、家に
おいて、いたので、安心しました。また、ピザは、ドイツ語で、
話せなく、僕は、ピザと、このピザは、ドイツ語で、話せる。そして、
アリスさんと、ピザの、言っていることを、通訳してくれて、初めて、
ピザの、ドイツ語で、話せる。大変、嬉しかったです。

ピザの、僕の存在のことと、"兄貴" と思って、何れ、嬉しかったです。
僕もピザの、ドイツ語の、"弟" として、見て、早く、家族に、慣れたいと、
思っています。

担当： 竹 内

Freitag

日時: 2008年 7月25日 (金曜日) 天気 晴れ時々曇り時々雨



今日の日程

8:40頃 レーバックセンターで版画作り
11:30頃 乗馬協会の見学(乗馬体験後昼食)
13:30頃 箱型馬車での旅 ~ 17:30頃
19:30: ミュンヘン教会でのコンサート
21:00 ~ 解散

馬、ミューンヘン教会でレクリエーションが楽しかった。

感想 今日 レーバックセンターで昨日から作っていた木版画の制作をした。
 木を削っていく作業は、骨の折れるものだったが、形はできたと思う。みんなの作品は
 素晴らしいものばかりだった…。作り方を教えてもらった先生に別れを告げて、
 次は乗馬協会へ歩いて向かいました。建物自体は何年前に建てられたよう
 でしたが、結構古かった。説明を受けた後、馬と対面。馬の方が
 怖がっているように見えたが、乗馬体験はとてもおもしろかった。
 みんな乗りこなしていたな…。しかし、馬が後半になるとだんだん動きが
 鈍くなっていったような気がします。

昼食がおいしくなかったか(笑)、次は馬車での周遊。馬の気持ちになって
 みると、哀れにも思えるが、考えたらキリがない。馬車の乗り心地はなかなか
 でした。目的地に到着するころには、皆疲れていたみたいですが、馬や牧羊犬、
 猫等、今日は重動物との接触合いが多かった日だったと思います。
 解散後、コンサートのあるミュンヘン教会へ。カビシュー家は皆正装をしていたので、
 馬乗りの時の服装で大丈夫かなと思いましたが、大丈夫でした。コンサートはとても素晴
 らしいもので、ドイツ語だから意味はわかりませんでしたが、それでも
 何か響くものがありました。あのようなコンサートにまた行きたいと思います。
 ドイツ滞在も1週間を切りました。残り少ない日々を無駄にしないよう、
 充実した毎日を送っていかなくてはなりません。

担当: 齊藤

日時：2008年7月27日（日曜日） 天気 晴涼

今日の日程 受入家族の企画



- ・カヌー
- ・手作りケーキをテラスで食べる
- ・マリア運転の車でドライブ
- ・テラスでBBQ
- ・団らん

感想 今日は、何時に起きてもいいよ！と言われてたけど普通に！？

8:45に目がさめた☆朝食は外のテラスで。それから、カヌーに行く準備をして、車に乗りこみGO☆今日は、暑かったけど、日本みたいな汗がベトつく感じじゃなくて、快適だったからよかった♡カヌーでは、前から2番目に座った。4人全員オールをもってカヌーの旅へ。最初は普通にこいでたけど途中から、逆流したり、ボートを揺したり、反対向きで川を下ったりして遊んでた。すごく楽しかったからすぐ終っちゃった(笑)それからお昼ごはんをMマックで食べて帰宅。4:00頃にマザーのお父さんとお母さんが手作りケーキ「マルボー」を持って来てくれて、皆でおやつにした♡マザーもあたしの大好きな4-ズケーキを焼いてくれていて、大きなケーキが2つもあった♡どちらも美味しくて、あという間に2種類制覇☆おかわり何度もすすめられたけど、さすがにあの大きさでおかわりはキツイと思った。それから、ゲームしたり、マリアの『スズキ』に乗ってドライブに☆17歳で車の免許もってるなんて良いなあ～!!それで帰って来て、おいちゃんとおばあちゃんは帰って、夕食の準備☆BBQ!ドイツのウインターは有名みたいだし、すごくおいしかった♡もちろん、おかわりしたよ!! 千ヨバナナにもトライしてみたし、たくさん家族とお話した気がする☆夕食後は団らん。テレビ見たりして、まったり。… ㄹㄹㄹ

☆今日も充実していて楽しい1日を過ごすことができました。

担当：門司喜久子

日時：2008年7月28日(日曜日) 天気 晴 ☀

今日の日程



リサイクル工場見学
風車の見学
村の案内・村の展示
チーズの展示
カーン見学

感想 今日お父さんにリサイクル工場まで送ってもらった。着くとみんな集まっていた、休日の話を聞いた。それぞれ家族違った過ごし方で驚いた。リサイクル工場では、担当の方から色々話を聞くことができた。話を聞くと日本とは全く違ったごみの分別の仕方としても勉強になった。ドイツでは毎日ごみを出せることが便利だと感じた。見学が終って、プレゼントをもらってドイツに来て初めての魚料理を食べた。日本人好みの味としてもおいしかった。それから、みんなバスにのって風車の見学ができるところに行った。おしごを上って風車の構造や仕組みを知ることができた。次に、ガニのチーズの展示を見学した。最初は食べるのにも抵抗があったけど、実際に食べてみると意外とおいしかった。途中でタシヤさんという有名な記者の方が来て、たくさん写真を撮ったり、取材を受けたりした。たくさん新聞にのってたら嬉しいなあ。カーンは体験はできなかったけど、乗ったり、説明を聞くことができたのでよかった。今日とても充実した日だったので——も疲れた。〃

担当： 野口 優紀

日時：2008年7月29日（火曜日） 天気 晴れ☀

今日の日程



ツアイツ 駅集合
ハレ市 一日視察
(市内名所・先史時代の博物館 動物園・ショッピング)

感想 今日はいつもとより朝早く起きて、お父さんに送ってもらって
ツアイツ 駅に行った。日本とは違った造りでとてもきれいだった。
みんな集合してからは、初めての電車に乗った。電車は
日本と似ていて、席も2つと4つに並んでいた。ハレ市までは
思っていたよりも遠かったけど、その間周りの景色がたく
さん見れたので良かった。ハレ市に着いてからは、路面電車
に乗って博物館まで行った。博物館では、土器や人の
骨を見たり月のことについて色々な話が聞けたのでとても
勉強になった。見学の後は昼食を食べて、動物園に行った。
動物園も日本と似た感じで変わった種類の動物を
見ることができた。ドイツの学生と一緒に回って交流が
できたので良かった。動物園の見学が終わって、また
路面電車に乗って、ハレ駅の近くに行き|時間自由時間
でショッピングをすることができた。限られた時間の中で
服や雑貨などたくさん買うことができたので大満足!!!
家に着いたらいきなり疲れが出て、少し食事を食べてからすぐ
ベットに向かって寝た。とっても楽しかった1日だったけれど
とっても疲れた1日でもあった。明日も何をするか楽しみだ♡

担当： 野口 優紀

日時: 2008年 7月 30日 (水・曜日) 天気 晴れ ☀

今日の日程



図書館見学
鳥栖市長と一緒にツァイツ市長表敬訪問
地下ツァイツ見学, 格技センター見学
ボーリング(マリア、私、ヨハネス、齊藤くん)
夕食作りお手伝い

感想 今日(きょう)はゆっくり起床☆久しぶりにマリアと2人で朝ごはんを食べて、ペーター登場!そして何故か、ペーターの家に行って、お父さんとお母さんと会って、私たちがのてる新聞記事をくれた!それから歩いて図書館へ。話を聞いていると、この図書館は会員制!?らしい。でもビデオとかDVDとかは種類が豊富で日本で言うTSUTAYAみたいだね!!って話してた!!

それから市役所へ。市長さんと課長さんが来ていて、一緒に表敬訪問をした。通訳さんも一緒に来ていたけど、本当にあの通訳には感動した☆それと、男の人のピアノ演奏もすごく上手くて迫力があって良かった(笑)

それからお昼ごはんを食べて地下ツァイツに!レインコートとヘルメットを着用して、いざ地下ツァイツへ!!中はすごくずすしくて、少し寒いくらいだった!!

道もけっこういくんでいて、この地下ツァイツの地図を作った人は、すごいなあ~と思いながら歩いた!楽しかったけど、あのレプリカには本当にびっくりした!!

それから格技センターに行ったけど、なんか、迫力満点で驚きの連続だった。それで見学が終わったあとに、DVDとかのプレゼントをいただいた♡ありがとうございました♡これで今日の研修は終わりで、帰りに私たちはアイスを食べに行った!☆アイスの名前が「スパゲティアイス」って言って...本当に見た目がスパゲティ(笑)けど味はクリーム、クリーム、アイス、クリーム。っていう感じでさすがだなと思った!☆後は、4人でボーリングしたりして、今日もすごく充実した1日になりました。

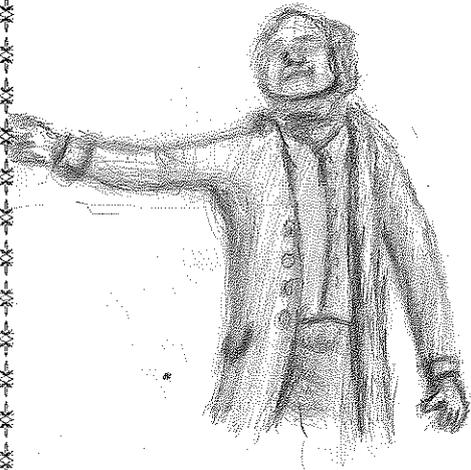
担当: 門司喜久子

Donnerstag

日時: 2008年7月31日(木曜日) 天気 晴れ

今日の日程

7:50. Gewandhausで待ち合わせ、出発
9:30 7-1ンワルト強制収容所の見学
12:30 ワイマル市の見学(視察)市場、ゲーテの家
等々...
17:00 帰バスでツアイト、帰



←ゲーテのマネキン(?)

感想 今日ワイマル市を見学した。最初集合場所があからなかったが、市役所の前だったとは思ってなかった。バスが大まかかつベンツであるのも驚きつつ、出発した。途中、ほとんどの人は寝ていたおだが、市長たちは起きていたようだ(課長談)

1時間くらい乗って、7-1ンワルト強制収容所跡に到着。アウシビッツとは目的が少し違っていたようだが、それでも収容所であることに変わりはない。当時の面影が強く残っており、史跡としては貴重な場所であるが、この場所の空気は重いものがあり、カバンに「FÜRSTEN-BRUNNEN(水)」が三、四本入っていたが、それより重い空気が周辺にはあった。他の人もキツそうだったが、焼却炉に日本からの千羽鶴が置いてあったのを見た時は、合掌せずにはいられなかった。見学後、ワイマル市内に向かった。

屋敷のソーセージはかなり有名らしくあったが、熱かったので、少し火傷した。その後は町中を歩き回りゲーテの家を見学した。ゲーテの家の職員さんはかなり独特のドイツ語を話していたが、その口からはシラーやハイネ等有名な人物ばかりでてきた。特に最後、「トルトルル」と何か言ったが、あれは何...? ワイマルはハルヤ'ナウムブルクほど大まかではなかったが、市場で人が話し合い、陽気な声や「アガーデン」から聞こえる音楽が奏でられ、子どもたちが走りまわっている。歩くだけでも楽しい気分になれる町はワイマルのようにあるだろうか。ゲーテも同じような事考えていたのなら、素直な人だろうな...。ドイツ土産も少しになりましたが、明日はみんなが一生涯に残る出来事であってほしいと思います。絶対そうなってほしい。

担当: 齊藤

日時：2008年8月1日（金曜日） 天気 ☀️ ☂️

今日の日程



8:50 学校集合	17:00 大聖堂集合
9:00 学校案内・食事	17:00~ 演奏会
12:00 市長等と食事	18:00~ 送別会
13:00~ 送別会のおし物練習	
14:30 一時帰宅	

感想

帰国まであと3日？

この日は、学校の調理室でポテトスープをホストファミリーと2人でつくった。意外と簡単に短時間でできた。スープ以外にフルーツヨーグルトを作った。ポテトスープもフルーツヨーグルトも上手にできたけどヨーグルトが苦かった。

学校は、〇〇室とかいうのがたくさんあった。日本みたいに机は1人1つではなく2人1つだった。

送別会では、ホストファミリーとダンスをしたりリーランドをおどした。2つともうまく上手にできた。みんなの集合写真がのったTシャツをもらったので、ごはんを食べた後みんな2人で書きをした。みんなのTシャツはナッセルでいっぱいだった。夕ご飯もおいしかった。(BBQ)

担当：宮地 透

日時：H20年 8月 3日・4日（日・月曜日） 天気 晴天



今日の日程

移動

感想 いよいよ帰りの報告です。二日分の移動をまとめてお送りします。

最終日。泣いても笑っても最終日です。

皆さん別れをととても惜しんでいる様子でした。

を振り返ってみれば、2週間とてもいい経験をさせてもらいました。

楽しみにしていたカヌーに乗れなかったのは残念でした。

ルフトハンザの人たちがストライキして中途半端に一時間遅れると聞きましたが、

それよりも、頭にはこの二週間で進んだ授業にどうやって追いつくかと残っている宿題をどうするかという非常に現実的な問題が頭の中を巡っていました。

皆さんが、「帰りたくないたくないな」なんて思っているであろう時に、自分だけ帰ったらまず「宿題どうしよう」とか「忘れ物してないだろうな」とか、思いつつフランクフルト空港を出発しました。

ライブチヒからフランクフルトまでは時間がかからなかったのですが、ここではストライキの影響はなかったようです。

とうとう正念場の長時間のフライト。なぜ行きと帰りのレポート担当が自分なのだろうとしばしば思います。くじで決まったようですが、自分で引いてないから、くじ運が悪いというわけではないと思いますが。。

ツアイスは自然多く、ホームステイでも大変親切にいただきました。ドイツの人や文化に触れることができとても意義深い二週間でした。ドイツは、とても楽しかった。

担当： 野上 翼

